

国語教育 相談室

小 学 校

NO. 65

国語教育相談室
No. 65

光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.124 定価126円（税込）
2009（平成21）年1月15日発行
発行人＝常田 寛
発行所＝光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話03-3493-2111
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>
E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp
印刷所＝村田印刷工業株式会社
デザイン＝秋葉 幹司
対談撮影＝高宮 青志

特 集

「読むことの活用力」を考える

対 談 高木まさき・青山由紀

おはなし定期便

たまたまタヌキ 内田麟太郎



わたしとことば

摩天楼 アーサー・ビナード

教師力講座 「机間指導」 まちがっていませんか？

書 写 の時間を考えよう

光村図書

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
くわしくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>
広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書広報部までご連絡ください。

摩天楼

詩人 アーサー・ビナード

英語が漢字に置き換えられて作られた日本語が、ごまんとある。pitcherは「投手」になってcatcherも「捕手」と決まり、最近ではvirtual realityが「仮想現実」といわれたりもする。数々のそんな訳語の中でも、ぼくがとりわけ気に入っているのはskyscraperの日本語版「摩天楼」だ。scrapeは「擦る」とも「磨く」ともとれるし、「擦り剥く」という意味にもなるが、少々やわらかめの「摩る」を選んだセンスが光る。しかもその「摩」が、「摩訶不思議」にも「摩利支天」にも通じて、古典の風格を備えている。「楼」がまたそこを補い、とても訳語には見えず、「大仏」や「五重塔」と同じくらい古い名称にも思える。発音は濁音がなく、でもどこか凄みがあり、大きく響くようにできている。ニューヨークに生まれた詩人Rachel Fieldは、かつて街のskyscrapersを見上げて作品を書いた。原題はそのままSkyscrapersだが、「摩天楼」と訳すと、よけい広がる感じがする。

摩天楼

レイチェル・フィールド

摩天楼たちは疲れないかしら？ いつまでも
あんなにしゃんと背をのばしていきやならないなんて。
ぶるぶる震えたりはしないのかしら？ 冷え込んだ夜
帽子もかぶらないで、寒空に頭がそのままふれている。
たまにさびしくなるかしら？
あまりにも高くそびえ立っているから。
ゆつくり横になりたいと思うのかしら？
二度と起きないで、そのままでいたいって。

東京の汐留に林立する超高層ビルが目に入ると、ぼくはフィールドの「疲れないかしら？」を思い出す。新しい建築物ばかりなのに、なんだか疲労困憊こへいの雰囲気^{こへい}がただよって、「ゆつくり横になりたい」印象を受ける。ただ、超高層ビルの二つの特徴は、一度つくってしまったら壊せない点だ。解体するには膨大な費用がかかり、二百年ももつといわれている。壊された唯の例外は、二〇〇二年九月十一日、ニューヨークの惨事か。



アーサー・ビナード

詩人。1967年米国ミシガン州生まれ。2001年に詩集『釣り上げて』（思潮社）で中原中也賞、2005年に『日本語ぼこりぼこり』（小学館）で講談社エッセイ賞、2007年には『ここが家だ——ベン・シャーンの第五福竜丸』（集英社）で日本絵本賞を受賞。近著に、詩集『ゴミの日』（理論社）など多数。

わたしとことば

摩天楼 アーサー・ビナード



特集

「読むことの活用力」を考える

対談

..... 高木まさき・青山由紀

「読むこと」活動系統表 青山由紀

教師力講座 ⑤

「机間指導」まちがっていませんか？ 安田恭子
吉永幸司



書写の時間を考えよう ③

共通の部分を見つけて学ぼう 新しい指導を考える会

おはなし定期便

たまたまタヌキ 内田麟太郎

辛口コラム 一寸苦言

副教材をどう選ぶか 一徹国語人



たかぎ まさき
高木 まさき
(横浜国立大学 教授)

対 談

あお やま ゆ き
青山 由紀
(筑波大学附属小学校 教諭)



特 集

「読むことの活用力」を考える

新しい学習指導要領では、国語科で習得した知識・技能を活用して、各教科等での言語活動の充実を求めています。発表などの表現活動では、習得したことを活用する場面が多く見られますが、「読むこと」を活用する学習はあまり知られていません。

今回の対談では、「読むことの活用力」をどのような場面で育てていくのか、どのような知識・技能を活用するのか、などについてお二人の先生に語り合っていました。

活用力とは

青山 最近、「活用力」という言葉をよく聞きます。そもそも「活用力」とは何でしょうか。

高木 「活用」については、中教審答申（二〇〇八年二月）に「各教科の指導の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、観察・実験やレポートの作成、論述といったそれぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を充実させることを重視する必要がある。」とあります。身につけた知識・技能を使いこなす力を「活用力」と考えるとわかりやすいかもしれません。

青山 それが「習得―活用―探究」という学習プロセスの中心になるんですね。

高木 そうです。各教科の学習プロセスの中心に置かれていて、それが総合的な学習の時間の、課題解決的な学習や探究的な活動につながっていく。それが「習得―活用―探究」の原則的なイメージです。しかし、「習得する学力」と「活用する学力」とは、明確に線引きできるものではありません。そういう単純なものではなくて往還運動も当然必要になると思います。

青山 全国学力調査でいうと「B問題」が活用力をみる問題と言われますが。

高木 より活用的な問題がB問題で、より知識・技能習得的な問題がA問題、というくらいに考えたほうがよいでしょう。活用の場面で習得していくこともあり得るからです。

新しい学習指導要領に見られる
「読むことの活用力」

高木 新しい学習指導要領の「読むこと」で着目すべき点は、大きく四つあると思います。一つ目は、「言語活動例」です。言語活動を通して、知識・技能も身につけることを前提にしているので、活用の中で習得的な学習をしていくことが考えられます。「習得」と「活用」を別々のものと考えerのではなくて、両方の行き来があるような学習スタイルが望ましいところです。

青山 その行き来があるから、言語活動例が内容の中に組み込まれたと言っているのでしょうか。

高木 そうですね。活動だけができればいいのではなく、活動を通して、何を身につけるのかという意識が常にならないといけません。そ

の重要なポイントが指導事項としてあるのだと思います。

ただ、記録文や報告文を読む力は、国語にとつての力と考えられがちですが、他教科にとつても大事な力です。その意味で単に活動をすればいいというわけではなく、活動自体に重要な意味があると意識することが大切です。

青山 言語活動例が内容に組み込まれて、しづりが強くなったと考える先生もおられるようですが、逆に、言語活動を通して、活用力が身についたり、習得できるようになったりするということですね。

高木 二つ目は、「学習のプロセスが見えやすくなった」ことです。指導事項を順番に見ていくと、どの領域でも、だいたいの活動のプロセスにそって並んでいます。その意味は、総則の第四の二（四）にある「児童が学習の見通しを立てたり学習を振り返ったりする活動」とあり、そこにつながる。学習者自身が学習活動の意味を考えることの重要性を言っているわけです。ただし、いつ

「習得」と「活用」、両方の行き来がある
学習スタイルが望ましいですね。

高木 まさき (たかぎ まさき)

静岡県生まれ。横浜国立大学教育人間科学部教授。中央教育審議会国語専門部会委員、全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議委員などを歴任する。著書に『「他者」を発見する国語の授業』（大修館書店）、『合科的・総合的な学習のための読書関連単元100のプラン集』（共編著東洋館出版社）などがある。光村図書小学校・中学校国語教科書編集委員を務める。



「読むことの活用力」を考える

もすべての指導事項を扱う必要はありません。ただこうやって並んでいることで、その意味がわかりやすい。少なくとも先生はそれをわかつて指導することが大切です。

また、従来見えにくかった説明的な文章の指導事項と文学的な文章の指導事項が、明確に示されているのも今回の特徴です。

青山 確かに、新しい学習指導要領解説国語編の三四ページを見るとよくわかります。大きな特徴ですね。

高木 三つ目は、「自分の考えの形成と交流」です。例えば、本を読んだり、映画を見たりして何か思ったら、それを口にして他人と意見交流するのが普通ですが、学校の授業の中ではあまりやってこなかった。しかし、PISA調査によってそういう活動が見直されて、とてもよかったです。交流する良さは、他人の考え方を知って、それを受け止める力が付くことだと思います。自分の読み方以外の読み方もあるのだと気づく。

青山 子どもは一つの側面で読んでいくので、違う観点の読み方を身につけさせるためには交流が必要です。確かに、交流は手立てとしてはとても良いのですが、評価が難しいです。

高木 そうですね。しかし、根拠が言えるための読みの力がついていないと、言える子と言えない子が出てしまい、結局、交流になりません。だから、根拠が言えるだけの読む力を、ステップを踏んで身につけさせたものです。また、先生が最後に子どもたちの交流を整理してあげることも大切です。

青山 「自分の考えは変わらなかったけれど根拠が増えた」とか「考えがゆれた」とか、交流する前と後の様子がノートなどに残せると、評価しやすいですね。

高木 四つ目は「目的に応じた読書」です。今までも、読書については、本や文章を選ぶなどいろいろな活動がありましたが、今回は、言語活動例の「エ」や「オ」でしっかり出てきます。また、指導事項になった以上、指導して評価しなければいけません。例えば、図書室に子どもを連れて行つて放つておくわけにいかない。もし放つておくなら、意図的にやらなければいけないということです。

青山 今まで以上に、読書は意図的な指導が求められるわけですね。

高木 例えば、文学の学習の交流だとしたら、主人公は何歳だとか、このときの状況はどうだったのかとか、まず内容確認のために話し合います。次に、解釈の部分になると、子どもによつて違いが出てきます。主人公の気持ちはどうだったのかと

考えるときに、いろいろな感じ方ができます。わたしはそれを「感情の束」と呼んでいます。交流では、「感情の束」が確認できればいい。そして、そう感じた根拠を話し合いたいですね。それは文章からでもいいし、人がこういう状況に置かれたらこういう気持ちを持つだろう、という自分の生活体験を持ち出してもよいと思います。感想の根拠がどこからきているのかを明確にすることで、「感情の束」に何本の筋があったかが確認できます。結論だけでなく、そう感じた根拠を交流することが大事だと思います。

青山 根拠を自分の言葉で表現することに、ウエイトを置いて評価することでしょうか。

高木 何となく本を読むというのもちろんあつてもいいのですが、生活で生かされるような読書を経験させる。「目的に応じた読書」の「目的に応じた」という言葉は「働く、生活に生きる」ということだと思います。

青山 教科の枠を超えて、言語生活とか、読書生活とか、子どもの生活の中にしっかりと落とし込んでいくことでしょうか。

高木 そうですね。中学校第三学年の言語活動例の「ウ」を見ると、「自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること。」とあります。新聞やインターネットなどを含む自分の読書生活を振り返り、これからどうしていこうかと考えられるレベルまで、義務教育の最終段階でもつていきたいということですね。

青山 最終的にそこを目指すために、小学校の段階では、もっと見通しを立てた方がいい。小学校までは「目的に応じた読書」で、中学校から急に「読書と情報活用」になるわけではなく、六年生になったら、情報活用を意識した読書にするなど、中学校を見すえた活動を設定する必要があるということです。

違う観点の読み方を身につけさせるためには交流が必要です。

青山 由紀（あおやま ゆき）

東京都生まれ。筑波大学附属小学校教諭。全国国語授業研究会常任理事、使える授業ベーシック研究会常任理事などを務める。著書に『話すことが好きになる子どもを育てる』（東洋館出版社）、『子どもを国語好きにする授業アイデア』（学事出版）などがある。光村図書 小学校国語教科書編集委員を務める。

教科書教材で育てる

「読むことの活用力」

青山 「読むことの活用力」を、教科書に掲載されている教材名を挙げてお話しただけですか。

高木 例えば、わかりやすいのは、「すがたをかえる大豆」（三下）でしょう。大事なことは、どういう順序で説明されているのかということです。説明する順番が、煮たり焼いたりといった形のあるものから、粉にひいたりといった形のないものになっていきますね。それは物を見るとききの観点になり、活用できるのではないのでしょうか。

青山 中学年は、事例の選択や順序性を考えられる時期です。しかし、どんな事例を選択して、どういう順序で説明したらいいのか考えられるようにするには、読むだけでは難しいかもしれません。書いていく中で初めて気づくことが多いような気がします。

高木 確かにそうですね。学習の場では、習得的な知識も、活用する中で再発見されて、生かされて身につけていく。

「読むことの活用力」を考える

青山 実際に授業をして面白いと思ったのが、子どもたちが読んだときに気になった言葉と、書こうと思ったときに気になった言葉が違ふということ。書こうと思って、教材文を読むと、気になる言葉が違ってくるんです。

高木 文章を書くときに、どういう順番で書いたらいいか意識させることは大切です。例えば「アップとルーズで伝える」(四下)も面白い教材で、わたしは、「ふきのとう」(二上)に通じるものを感じます。

青山 「ふきのとう」ですか？

高木 冒頭では、ふきのとうが芽を出すという小さい部分を見ている。それが森全体を見るようになって、最後はわつと世界が広がる。あれは春が訪れたという広がる気持ちと連動しながら視野が開けていくわけです。これは「アップとルーズ」の見方に通じるのではないのでしょうか。

青山 なるほど。二年生で「ふきのとう」を学習すると、子どもは、ふきのとうになりきってしまいます。しかし、中学年以上になると、書き手になつて考えられる。書き手は、ここをクローズアップして書きたいという意識が出てきます。二年生で読んだ教材を、四

他教科に生かす「読むことの活用力」

高木 説明文の構造は、いろいろなところに活用できるのかなと思います。

青山 基本的に説明文の構造は「序論―本論―結論」とすっきりしています。序論で問題提起し、本論では事例を出すか、内容説明をすることになる。小学校の説明文というのは、事例を通して何かを訴えたいのか、答えそのものを内容として説明したいのか、どちらかだと思います。

高木 例えば「人と『もの』との付き合い方」(五上)には、「ごみ問題ってなあに」という資料が入っています。始めは、自分たちの身の回りの生活について述べ、そこから江戸時代に遡って、次に海外について述べている。説明文の述べ方を学ぶにはよい教材ですが、残念ながら、ただの資料として使われるケースも多いようです。

青山 三年以上の教科書には、一つの資料が入っています。この資料の述べ方の工夫には着目させたいですね。また、説明文の読みの学習は、「書くこと」だけでなく、プレゼンテーションとか、ガイドブック、レポートなど、他教科にも生かすことができます。

年生の「アップとルーズ」の後に読んだら、読み方は全く違ってくるかもしれません。教科書の順番どおりにただ教えるのでは、今までのあまり変わりません。学年間で縦断的に教科書を見直していかないといいませんね。

高木 「大造じいさんとガン」(五下)は、動物は人間に近い面をもっている、という話です。他の学年で、動物が登場する教材は、「スイミー」(二上)や「ごんぎつね」(四下)が挙げられますが、「スイミー」や「ごんぎつね」は、動物というより、子どもが親しみやすいキャラクターですね。しかし、「ガン」は、動物でないといけないわけです。

青山 人間と動物との関係が書かれた文章だから、動物が擬人化されていない。

高木 そうです。「大造じいさんとガン」では、動物は人間に近い面をもっているねと、上からみているけれども、「やまなし」(六下)や「海の命」(六下)では、生命という大きな世界にもつていっています。

青山 既習教材は、他学年の教材として使えますね。年齢が変わつて、考え方や観点が変わると、今まで読んできたものが違った見え方をする。子どもにとっては面白いこと

活用力を生かせる子どもに育てる

青山 「読むことの活用力」が身につくと、どんないいことがあるのでしょうか。

高木 例えば、「わらぐつの中の神様」のような「ものの見方」を知っていると、家にある古いものに良さを感じたりして、「ものの見方」が豊かになります。わたしたちは物理的にものを見ているのではなく、コップ一つでも、そこに何かを感じて物語を重ねて見えています。その重ねている物語の数が多ければ多いほど豊かになる。すると、自分が得をするわけです。ただ修行のように読むのではなくて、読み取ったことを生かし、それが楽しいという経験ができるような学習の場を作つてほしいと思います。

また、学習を振り返ることも大切ですね。今日読んだ物語が自分の生活の中でどう生きてくるのか。そう考えられることが、新しい学習指導要領のねらいでもあります。過去の教科書を引っ張りだしてきて教えるといった、今使っている教科書だけで学習は終わらないという考えを持つことが、先生方には必要になつてくると思います。

青山 子どもには、学んだことを生かすということを、自覚させなければいけないように

だと思っています。

高木 例えば、物語構造が同じものを探してみようとか、引っ張りだして読む動機づけができますね。ある程度、抽象化しないと物語構造は見えてこないですから、物語を抽象化してとらえる学習にもなるわけです。

青山 「場面」の学習でも、学年間の縦断的な見方は大事ですね。「大きなかぶ」(二上)は、「二人ずつ増えていく」ので場面がわかりやすい。「お手紙」(二下)は時間で変わっていきます。「ちいちゃんのかげおくり」(三下)も時間で変わっていきますが、最後に何十年も隔たるといふ、同じ場所が時代を隔てて描かれています。同じことが「二つの花」(四下)でも言えますね。「わらぐつの中の神様」(五下)になると、現在―過去―現在という箱型構造になります。

思います。

高木 メタレベルで、学習を見つめる目が大事です。読み取ったことを生かして何かができるから読み取ることが身につくし、読み取ることが大事だという実感も持てるのです。それが自覚というものですね。

青山 うまくいかないときに、もう一回、前に戻つて何が大事だったのか考えたり、前に勉強したことどこを見直したらいいのかと考えることができると、学び方が身につく。それが「活用力」となるでしょうね。

高木 活用力は、知識・技能をただ活用するだけではなくて、活用知のようなものがあるのです。知っていれば使えるのではなく、実際に使ってみるうちに、知識の使い方を知るといふ。それはやはり試行錯誤を重ねたときに、効果的に身につくと思っています。





「読むこと」活動系統表

筑波大学附属小学校教諭 青山 由紀

新しい学習指導要領解説では中学3年までを見通せる系統表が示されています。そこで系統的な指導ができるように、現在の教科書教材の指導内容を表に記しました。「読むこと」領域内でのつながりと、「読むこと」を表現（「話す・聞く」、「書く」）につなげた場合を挙げています。学習したことを活用しながら新たな教材に取り組むようにしたいものです。

【表の見方】

教材	じどう車くらべ
読むこと	○問いと答え 「どうぶつの 赤ちゃん」1下、「サンゴの海の生きものたち」2上、「ありの行列」3上、「[かむ] ことの力」4上 ほか ○比較思考（共通の観点で読む） 「どうぶつの 赤ちゃん」1下 ★調べるために読む（図鑑など）
	○組み立てを考えた文（図鑑作り） ★観察記録（説明のしかた、原因結果「そのために」・生活科：町探検） ★算数（比較思考）

○ は指導内容です。

「 」は関連教材です。

★ は国語科以外の活動とのつながりです。

1年	教材	はなの みち	いろいろな くちばし	大きな かぶ	じどう車くらべ	くじらぐも	どうぶつの 赤ちゃん
	読むこと	○音読（会話文） 「くじらぐも」1下、「ふきのとう」「スイミー」2上 ほか ○場面の様子 「おむすび ころりん」「大きな かぶ」1上、「くじらぐも」「たぬきの 糸車」1下 ほか	○問いと答え 「じどう車くらべ」1上、「どうぶつの 赤ちゃん」1下、「サンゴの海の生きものたち」2上、「ありの行列」3上、「[かむ] ことの力」4上	○音読（繰り返しやリズム） 「くじらぐも」1下、「ふきのとう」2上 ほか ○場面の様子 「くじらぐも」1下、「ふきのとう」2上 ほか ○読書（繰り返しのあるお話）	○問いと答え 「どうぶつの 赤ちゃん」1下、「サンゴの海の生きものたち」2上、「ありの行列」3上、「[かむ] ことの力」4上 ほか ○比較思考（共通の観点で読む） 「どうぶつの 赤ちゃん」1下 ★調べるために読む（図鑑など）	○音読（声の大きさ・会話文・繰り返し） 「ふきのとう」2上 ほか ○場面の様子 「ふきのとう」2上 ほか ○同じ作家の読書（「ぐりとぐら」など）	○問いと答え 「サンゴの海の生きものたち」2上、「ありの行列」3上、「[かむ] ことの力」4上 ○順序（時間） ○比較思考（共通の観点で読む） ○事例の選択 ★調べるために読む（図鑑など）
2年	表現		○問いと答え（これは～です。） 「わたしは、なんでしょう」1下 ★観察記録（説明のしかた、様子を表す言葉・生活科）	○劇化（特別活動）	○組み立てを考えた文（図鑑作り） ★観察記録（説明のしかた、原因結果「そのために」・生活科：町探検）	○音読劇 ★劇化（特別活動）	○説明の順序を考えた文（図鑑、クイズ作り） ★時系列での説明（生活科：成長記録）
3年	教材	ふきのとう	たんぼぼの ちえ	スイミー	サンゴの海の生きものたち	お手紙	一本の木
	読むこと	○音読（会話文） 「スイミー」2上 ほか ○場面の様子 「スイミー」2上、「お手紙」2下 ほか	○順序（時間） 「サンゴの海の生きものたち」2上、「一本の木」2下 ○ほかの「たんぼぼの ちえ」を調べて発表する	○場面の様子（想像豊かに） ○音読（声の大きさ・会話文・繰り返し） ○登場人物に手紙を書く ○同じ作家の読書	○順序（事柄） 「一本の木」2下 ○問いと答え 「ありの行列」3上、「[かむ] ことの力」4上 ★調べるために読む（図鑑など） ○組み立てを考えた文（図鑑作り・生き物カード）	○場面の様子（登場人物の変容） 「三年とうげ」3上 ○登場人物へ手紙を書く ○シリーズ本を読む	○順序（事柄、手順） ○絵と文章をあわせて読む
	表現	○順序（時間） 「こんなお話を考えた」2下	○記録文 「かんざつ名人に ならう」2上 ★観察記録（生活科）	○順序（時間） 「こんなお話を考えた」2下 ★劇化（特別活動）		○創作文を書く	★おもちゃ作り（生活科・図工：説明書を読む） ★説明のしかた
4年	教材	きつつきの商売	ありの行列	三年とうげ		ちいちゃんのかげおくり	すがたをかえる大豆
	読むこと	○音読（場面の様子がかかるように） ○擬音語 「森へ」6上 ○場面の違い ○シリーズ本を読む	○問いと答え 「[かむ] ことの力」4上 ○段落の役割（意味段落） ★調べ学習（理科）	○民話・昔話を読む（外国の作品・とんち話など） ○読んだ本を紹介する 「白いぼうし」4上		○場面の移り変わり 「一つの花」4下 ○戦争を題材とした本を読む ○感想交流（自分の読み） ★戦争や昔のことについて調べる（資料・インタビューなど）	○段落相互の関係（意味段落・説明しやすい順序） 「[かむ] ことの力」4上 ○事例の選択や順序 ○調べるために読む（図鑑・事典） ★本の探し方、調べ方を知る（図書館利用、理科、社会、総合など）
	表現	○続き話の創作（同じ構成で書く）	○段落の役割 「おもしろいもの、見つけた」3上、「せつめい書を作ろう」3下 ★報告書（社会）、実験観察記録（理科）	★劇化（特別活動）		★戦争についての新聞作り、発表など ★昔のくらし（社会）	○文章構成の中で事例を挙げて書く（食べ物についての説明文作り、★食育） ○課題設定のしかた（マッピング）
5年	教材	三つのお願い	「かむ」ことの力	白いぼうし		一つの花	アップとルーズで伝える
	読むこと	○音読（会話文・心情の表現） ○登場人物の性格、気持ちの変化 「ごんぎつね」4下 ○登場人物像の心情を行動や会話から読み取る ○感想交流（自分の読み）	○問いと答え ○段落のつながり ○要約する 「サクラソウとトラマルハナバチ」5上 ★人の体のつくりと運動について調べる（理科）	○叙述を基に想像して読む（ファンタジー） 「森へ」6上、「やまなし」6下 ○感想交流（表現の工夫） ○シリーズ本を読む ○読んだ本を紹介する ★色彩表現を読む（図工）		○場面の移り変わり ○題名の表現する意味 「カレライス」6上、「やまなし」6下 ○戦争を題材とした本を読む ○感想交流（自分の読み） ★戦争や昔のことについて調べる（資料・インタビューなど）	○段落相互の関係（問いと答え、意味段落、説明のしかたの工夫） ○伝えたいことの中心を読む ○写真と文章をあわせて読む 「千年の釘にいどむ」5上、「カレライス」6上 ○編集意図を考えて読む 「ニュース番組作りの現場から」5下 ○調べるために読む（図鑑・事典）
	表現		○段落の役割（意味段落） 「生活を見つめて」4下 ★調べたことを報告書にまとめる（理科、社会、総合など）			★戦争についての新聞作り、発表など ★昔のくらし（社会）	○写真などを効果的に使い学級新聞などを書く ○書こうとすることの中心を明確にして書く
6年	教材	新しい友達	サクラソウとトラマルハナバチ	千年の釘にいどむ		わらぐつの中の神様	ニュース番組作りの現場から
	読むこと	○音読（会話文・心情の表現） ○登場人物の相互の関係から性格、気持ちの変化を読み取る（視点人物、鍵となるものなど） 「わらぐつの中の神様」5下、「カレライス」6上	○問いと答え ○要旨をとらえ自分の考えをもつ 「生き物はつながりの中に」6上 ○事実、感想、意見を読み分ける ○感想交流（筆者の意見）	○感想交流（ドキュメンタリーを読んで自分の生き方を考える） ○読書会をひらく（ドキュメンタリー作品） ○写真と文章をあわせて読む 「ニュース番組作りの現場から」5下、「森へ」6上		○登場人物の相互の関係から性格、気持ちの変化や生き方を読み取る（優れた叙述やキーワードとなるものなど） 「カレライス」6上 ○作品の構成（現在－過去－現在）	○目的に応じて文章の内容を押さえる ○写真や図版と文章をあわせて読む 「森へ」6上 ○編集意図を考えて読む（時系列に沿った文） ★情報産業、放送、新聞など（社会）
	表現		○意見文を書く（筆者の考え、述べ方の工夫など） 「人と「もの」との付き合い方」5上、「生き物はつながりの中に」6上	○創作文を書く（表現の工夫など） 「物語を作ろう」5下 ★地域のものづくりについての調査、発表（総合、社会）		○続き話を書く ★方言について調査、発表する（総合） ★雪国のくらし（社会）	○ニュース番組を作る「目的に応じて考えたことや伝えたいことを発表する」 ○資料や図表を使って考えが伝わるように書く ○資料を提示しながら説明する
6年	教材	カレライス	生き物はつながりの中に	森へ		やまなし	平和のとりでを築く
	読むこと	○登場人物の相互の関係から性格、気持ちの変化を読み取る（視点人物、鍵となるものなど） ○翻作（視点をえて日記や物語に書きなおす） ○感想交流（考えを広げたり深めたりする）	○問いと答え ○要旨をとらえ自分の考えをもつ ○事実、感想、意見を読み分け文章全体の構成を把握する ○感想交流（筆者の意見、述べ方、事例の取り上げ方など）	○五感の表現をとらえ情景の美しさを読む 「やまなし」6下 ○読書会をひらく（テーマ、表現、ジャンルなど） ○写真と文章をあわせて読む ○効果的な表現の工夫を読む		○心情や場面についての描写をとらえ、優れた叙述について考えをまとめる ○題名の表現する意味 ○作者の生き方（伝記）とあわせて作品を読む ○同じ作者の本を読んで推薦の文章を書く ★色彩表現を読む（図工）	○事実と感想、意見などとの関係から筆者の考えをとらえ、自分の考えを明確にしながら読む ○目的に応じて複数の文章を比べて読む（書籍、新聞、雑誌、パンフレット、ホームページなど） ○自分の課題解決のために意見を述べた文章や解説の文章などを利用する。 ★情報の真偽やモラルについて知る（総合、社会）
	表現	○創作（自分の「カレライス」を書く）	○意見文を書く（筆者の考え、述べ方の工夫など）	○写真と文章をあわせたドキュメンタリーを発表する ○作品のテーマに対しての鑑賞・感想文を書く		○朗読発表会を行う ★幻灯のBGMを考える（音楽）	○媒体にあわせた表現方法や構成を考えて発信する ★平和について調べ、自分の意見を発表する（総合、社会）

机間指導での具体的な言葉かけ

いつ、何を、どのように見取り、生かすか。

机間指導は目的に応じてタイミングを選びましょう。

授業の序盤：一人一人の実態に応じた指導を。

授業の中盤：具体的に個に応じた指導を。

授業の終盤：学びの成果を把握し、交流に生かす指導を。

一人一人の様子をていねいに見取りましょう。

終わったら、〇〇ちゃんと読み合ってみましょう。
(課題が済んでいる児童には次の提示をしましょう。)



いつも
座席表を持って。

……。

(思案中の児童には声をかけないことも大切です。)

支援は個に応じて柔軟に的確に行いましょう。

先生と一緒に読んで、大事なところにサイドラインを引いてみよう。そこをヒントにまとめてみて。



p.〇の△行目もよく読んでみると、考えがうまくまとめられるよ。

評価したことを全体の指導に役立てましょう。

とてもよい気づきをしていますね。ぜひ皆に伝えてください。進んで手を挙げてね。



みんなと違った視点でまとめているので紹介しましょう。このあと指名しますよ。

児童のノートに、赤ペンで丸などを
つけながら回ると効率が上がります。

「机間指導」まちがっていませんか？

見直そうあなたの「机間指導」

元新宿区立西戸山小学校教諭 やすだ きょうこ 安田 恭子

この間、「あなたは実によく『キカンサンポ』をしていますね。」って言われたんだけど…。それってどういうこと？
褒められたのかな？



えーっ。ちがうよ。
それは「あなたは、子どもたちの机の間をよく歩いているけれど、ただ歩いているだけじゃだめだよ。」って言われたんだよ。



かつて、机間巡視という言葉が使われていましたが、「巡視」でもなく「散歩」でもなく、「机間指導」は、まさに児童一人一人をしっかりと見取って授業をより活性化する、大切な指導です。
効果的に行いたいですね。



「机間指導」4つのポイント



- ① 目的を明確に。
- ② 一人一人に合った指導を。
- ③ 座席表を有効に使おう。
- ④ 「みんなに同じに」でなくてよい。



1

今、自分は何のために机間指導をしているのかを常に考えましょう。つまずきを探すためですか？ 次の学習に生かすためですか？

-
-
-
-

2

子どもの実態はさまざまです。ちょっとしたヒントでピンとくる子なのか、丁寧に確認しないと納得できない子なのか、実態に合わせた指導をしましょう。

-
-
-
-

3

座席表を使って、一人一人の様子を書き込んでおくとう利です。記号化してチェックするのもいいですし、何を指導したかも記録できます。

-
-
-
-

4

「いつでも、どの子にも同じように」机間指導をしなくてよいのです。今日は、この列を重点的に……次はあちらを……という焦点化も大切なことです。

-
-
-
-



いちばん大切なことは、「機を捉えて」指導することです。

今、一生懸命取り組んだところを、すかさず褒めて認めてもらえたら、その子は十分満たされた気持ちになるでしょうし、どうまとめているか困っている時に助言をもらえたら、焦燥感に陥ることなく学習が続けられます。

さらに、できるだけ子どもたちの目線に合わせて指導しましょう。後ろからそっと手をそえてあげることも、ときには必要かもしれません。何より、一人一人の身になって指導にあたりたいものです。

横から・斜めから子どもを「みる」

京都女子大学教授 吉永 幸司

(1) 教師になってよかったと思うとき

教師になってよかったと思うことがある。作文の時間、次の語句が見つからなくて困っている子に、ヒントの言葉を示すと、急に勢いづいて鉛筆を動かすようになったときや、それほど上手ではないけれど、がんばって音読をしている子の横で耳を澄まして聞いているときなどである。

国語の授業では、教師は黒板を背にして、子どもを見渡していることが多い。そのときは、授業の進め方に力が入り、個々の子どもの様子があまり見えていない。しかし、「机間指導」はそうではない。子どもの学習ぶりを横から、斜めから、そして、背中越しに見たり、心臓の音が聞こえるような位置にいる。だから、子どもの様子をしっかりと見ることができる。一般的にいわれている、子どもの目の高さで見えるのである。「机間指導」で大事なことは、学習活動の深まりやつまずきにすぐに対応することである。

(2) 「机間指導」で子どもを「みる」とはどういうこと

「机間指導」というのは、発問や指示の後、個別に考えをノートに書いたり、少人数で話し合いをするときに行う。そのとき、教師は、個々の子どもを「みる」ことが中心になる。「机間指導」の「みる」には次のようなものがある。

① 学習活動の全体像を「見る」

発問や指示をした後、教室を一巡すること、つまり「机間指導」である。指示通りにできているかどうか、発問は理解できたかなど、その時々に対応や、学級全体の傾向を知るための「見る」である。

② 学習課題や問題の取り組みの様子を「観る」

全体像を把握した後は、指導が必要な子は誰かということに目を注ぐようにする。ノートが書けているか、課題への取り組みは大丈夫かなどと見る視点を決めて「観る」のである。指導の観点を決めた「机間指導」をするのである。

③ 学習の進め方や理解の実態を「診る」

指導を必要とした子やグループに対して、課題を解決するために方向や内容を与えるときがある。学習の仕方や理解の方向は確かであるかということ把握するときの「診る」である。

④ 学びの様子を把握し個に応じて「看る」

個々のつまずきに対して、「これを書きましょう」「ここを読みなさい」などと具体的に指示し助言をするのである。それは子どものつまずきを丁寧に捉え、理解や活動を促すときの子どもの見方が「看る」である。机間指導の効果がよく表れ、教師になってよかったという気持ちになるときである。

共通の部分を見つけて学ぼう

新しい指導を考える会

書写の学習で目ざすべきものは何でしょうか。

山梨大学教授の宮澤正明先生によれば、書写に求められることは、「個別の文字の完成度を高めるのではなく、あらゆる文字を正しく整えて書くことができる方法（原理・原則的基準。書写の基礎基本と考えることもできる）を習得し、社会生活におけるさまざまな書写活動に対応できる書写能力の向上」であり、言い換えれば、「文字を正しく整え、さまざまな書式、形式に適切に書くための普遍的な原理・原則及び技能の習得にある。」とあります。

つまり、「文字を正しく整えて書くための知識を理解すること、それをふまえてさまざまな文字を書くことで応用力を養うこと」を旨とすること」が、書写の目ざすものという考え方です。（※）

ここでは、平仮名、片仮名、漢字をいくつかの視点で共通部分を見つけ、書写の学習を考えてみたいと思います。

I 平仮名編

平仮名は、漢字の草書体が略化された文字であるので、そのことをふまえて書く必要があります。そのためには、次のような指導をするとういでしょう。

3 「外形」で分けてみる

平仮名の外形は大体が正方形ですが、正方形でない平仮名は何かについて、五つの字形にまとめてみたいと思います。

- (1) 縦長の長方形
う・き・く・し・ち・ま・も・よ・ら・り
- (2) 横長の長方形
い・つ・へ
- (3) 三角形
え・ふ・み・る・ろ・ん
- (4) 逆三角形
す・そ・て・や
- (5) 円に近い形
ぬ・の・め・ゆ

II 片仮名編

片仮名は、漢字や漢字の一部をとってできた文字であるので、そのことをふまえ、基本的には漢字と同じように書くことが必要です。ただ、漢字に比べて単純な字画になっているため、一画一画の果たす役割が大きいため、次のような指導をするとういでしょう。

○点画の位置、方向、長さを指導する

○似た字形が多いので、点画の書き方に注意し、誤字や別の文字にならないように指導する

○文字の形（外形）を指導する

○直線的な点画の漢字に対して、曲線的な（丸みのある）点画であることを指導する

○「向かい合う点画」「曲がり」「結び」「折れ（折り返し）」などを指導する

○文字の形（外形）を指導する

1 「はね」のある文字は一字だけ

平仮名ではねるのは、「か」の一筆目だけです。それ以外は、すべて筆脈であり、次の点画に続くために線となって表れた「はね出し」であり、付加的な要素です。したがって、「か」の「はね」のようにはねなければ誤りというものではありません。

それでは、「はね」のように見える文字はというと、「い（二筆目）、き（三筆目）、け（一筆目）、こ（二筆目）、さ（二筆目）、せ（二筆目）、た（三筆目）、な（三筆目）、に（二筆目）、は（二筆目）、ふ（二筆目）、三（三筆目）、ほ（二筆目）、や（二筆目）、ら（二筆目）、り（二筆目）」が、挙げられます。

これらの平仮名は、はねとは区別し、次の点画に続くための線「はね出し」と理解して書くことが大切です。

2 「結び」の形で分けてみる

(1) 最後に「結び」がある場合で、横長に結ぶ平仮名
な・ぬ・ね・は・ほ・ま・よ・る

(2) 途中に「結び」がある場合で、三角形に結ぶ平仮名
お・み・む・す

1 点画の位置・方向に注意して

- (1) ソ・ン
- (2) シ・ツ

※平仮名の「し」と「つ」の字形と関連させて指導すると、二つの点の位置や方向、三画目の方向が理解しやすくなります。

2 似た片仮名を集めてみる

- (1) 二画目の長さや方向、終筆の違い
ア・マ・ヤ
- (2) 折れの方向、長さの違い
コ・ユ
- (3) 点や画があるかないかの違い
ウ・ワ、ク・タ、ノ・メ
- (4) 画の方向・終筆の違い
ク・ワ
- (5) 筆順、画の方向の違い
ナ・メ など。

3 漢字とほぼ同じ形と考えてよい片仮名を集めてみる

エ・エ（こう）、カ・カ（ちから）、タ・タ（ゆう）、ニ・ニ（に）、ロ・ロ（くち）

4 漢字や平仮名との区別が必要な片仮名を集めてみる

(1) 漢字との区別が必要な片仮名
チ・千（せん）、ハ・ハ（はち）、ホ・木（き）、ミ・三（さん）





自分の名前から、左払いを見つける。



- (2) 左払いを四つに分けてみる
- ① 短く横に払う
千・𠂔(二画目)、イ(ぎょうにんべんの二画目)、禾(のぎへんの二画目) など。
- ② 四十五度の方向に払う
大部分の左払い
- ③ 途中まで(交わるところ)まっすぐで、その後、左の方向に払う
火・大・夫・天 など。
- ④ ずっとまっすぐで、最後だけ左の方向に払う
月 など。



- Ⅲ 漢字編
- 漢字は、平仮名や片仮名よりも画数が多いため、正しく整った文字を書くためには、いろいろな要素を含んだ原理原則をふまえて書くことが必要です。そのためには、次のような指導をするとよいでしょう。
- 点画の長短を指導する
- 点画の方向(「左払い」「折れ」など)を指導する
- 画と画の間(画間)は等分割を指導する
- 文字の組み立て方(「左右」「上下」「かまえ」「たれ」「たれ」「たれ」など)を指導する
- 1 点画の長短
- (1) 「女(おんな)」がある漢字は、その漢字の横画の中で「女」の最終画を最も長く書く
- 安・委・案・要・妻・姿

- (2) 平仮名との区別が必要な片仮名
へ・へ、り・り
- 5 「外形」で分けてみる
- (1) 縦長の長方形
イ・キ・ク・タ・ト・ノ・ミ・リ
- (2) 横長の長方形
エ・ニ・ハ・ヘ・ユ
- (3) 逆三角形
ア・ウ・ケ・サ・ソ・マ・ワ・ヲ

おわりに

今回取り上げた例は、ほんの二例です。基準となる文字で習得したことを、他の文字に活用する力をつけ、日常生活でも使えるようにすることが書写の学習のねらいです。

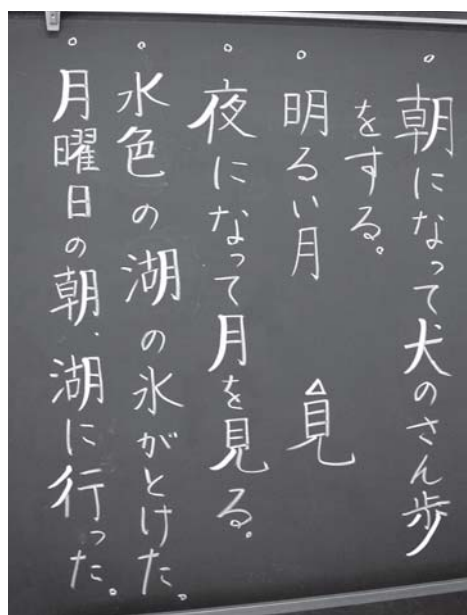
書写の指導の中で、このことをいつも念頭に置いて授業を進めたものです。

【参考文献】

- ・ 全国大学書写書道教育学会編『書写指導(小学校編)』(萱原書房)
- ・ 氷田光風監修『毛筆書写指導の方法』(光村図書)

【補注】

※ 光村図書「小学校国語教育相談室 No.44」連載「書写」って、こんなに
おもしろい！



短文をつくる。

2 点画の方向

- (1) 折れを二つに分けてみる

- ① 真下に折れる

目・貝・見・頁・自・月 など。



- ② 内側に折れる

口・言・田・由・車・里・白・皿 など。



「日」が部分になったとき、縦長の「日」は真下に折れ、横長の「日」は内側に折れる。



※「おはなし定期便」は、子どもたちへの「読み聞かせ」や「朝の読書」の時間などに活用ください。

たまたまタヌキ

内田 麟太郎
うちだ りんたろう

ただ広いだけの原っぱ。かれ木にカラスが「羽、とまつてい

るだけです。」

「ああ、つまんねえ、つまんねえ」

キツネは、大げさにあくびをしました。いいえ、あくびをしかけ、

「へっ」

と、とび下がりました。目の前にくたんとびていたヒキガエルが、ひよいと立ち上がったかとおもうと……。竹の子になったからです。

それは、おとこのことでした。

それからずっと、キツネはやぶにひそみ、竹の子をにらんでいました。ときどきひからびたネズミをしゃぶりながら。すると、きのうのひるになり、竹の子はいきなり、

そらみたことかと そらみれば

と歌い出し……。ぬるりとタヌキになりました。

「ひっ」

キツネは、ひめいといつしよに立ち上がり、ふにやりとくずれました。腰が立ちません。

タヌキも、おなじ思いのようでした。

「おれは、いったいなに者なのだ。四日前は、東京のビルで、社長のいすにかけていた。たしか、社員は二千人ほどいたはずだが」

(すげえ)

キツネは目をしばたきました。タヌキも、いくらかふんぞりかえっているようです。

「で、その前の日は、ジャンボ機のパイロットで……。その前はメジャーのピッチャーで……。その前は、なんだつたかのう」

タヌキは、あまりにもくると変わりました。それを思い出せないのでした。

「うーん」

腕組みしているタヌキに、かれ木の上から、カラスがあっさりいきました。

「犬のうんち」

「そ、そうだ。犬のうんちだった」

タヌキはなにがうれしいのか、手をたたきました。だが、すぐにまゆをしかめ、ぶちっと草をむしりました。

「だとすると、ますますわからん。おれはなににでも化けられるタヌキなのか。それともなにものかが、たまたまタヌキに化けている、たまたまタヌキなのか」

タヌキはむつかしい顔で遠くを見ました。どこから見てもナヤメル哲学者です。

そんなタヌキにむかつて、カラスが重々しくいきました。

「そのとおりだ。おぬしはタヌキなどというけちな動物ではない。おぬしは、タマシイなのだ。世界の大物になろうと、変化をつづけているタマシイだ。そして、たぶん……」

カラスはそこで口をつぐみ、はつたとタヌキの目を見すえ



あべ 弘士／絵

そんなキツネには目もくれず、タヌキはゆるりと石に腰をおろし、ひとりごとをいはいはじめました。

「おれは、まことにタヌキであろうか。それとも……」

そこで、タヌキは鼻をひくつかせました。

「けっ、タヌキくせえ」

どうやらタヌキは自分がタヌキなのが、気に入っていないようです。さらにタヌキはつぶやきました。

「おれは、タヌキにしては、かしこすぎるところがある。生まれつきかもしれんが……」

「ぶっ」

キツネはおもわずふき出しました。でも、すぐに「まてよ」と、真顔にもどりました。たしかに、タヌキが化けるのは、キツネもたびたび聞いています。

しかし、ヒキガエルが竹の子に化け、その竹の子がタヌキに化けたとなると……。わけがわかりません。

ただ、竹の子がタヌキに化けただけなら、竹の子に化けていたタヌキが、もとのすがたにもどつたのだといえるでしょうが。

ました。キツネもおもわずやぶから立ち上がりました。
「た、たぶんとは、なんだ？」

タヌキもすこし足がふるえています。

「たぶん、おぬしは、今日、世界」の大物になる」

「せ、世界」……」

「さよう、世界」の」

タヌキは、やつぱりそうであったかというように、深々と
うなずきました。ほほにうかぶかすかなほえみ。すでに
そのものになったような満足顔です。

「しかし」

その満足顔に、カラスが冷水をぶつけました。

「し、しかし、なんだ？」

タヌキは、あわててカラスを見上げました。

「おぬしには、まだまよいがある。こころのどこかで、おれは
もしかしたらタヌキではないかと、うたがっている。その弱い
ところが、世界」の大物になることを、じゃまをしておる！
大声でさけべ！ タヌキは大ばかだ、と」

「わ、わかった。お、おれは、けちなタヌキなどではない。

おれは、さけぶぞ！」

タヌキはすつくと立ち上がり、腹のそこから声をしぼり出
しました。

「タヌキは、大ばかだ——」

山々にこだましていく腹からのさけび。タヌキはおもむろ
に胸をぞらし、腰に両手をあてました。どうして、どうして、
たいしたすがたです。キツネの目にも、タヌキは、たまたま
タヌキにちがいないと、おもえてきました。

「なつたぞー！ おぬしー」

カラスが、さけびました。



おはなし定期便 — たまたまタヌキ

「な、なりましたか！」

タヌキはどんぐり目をいつそう大きくしました。

「みごとじゃ。おぬしに、もう、まよいはない。おぬしは、
たまたまタヌキなのだ。あとは、ひたすら大物になれ！」

「どうすればなれます、先生」

タヌキは、おもわずカラスを先生とよんでいました。

「目をつぶり、思うのじゃ。大物を。そして、化けるのでは
なく、そのものになりきるのじゃ」

「な、なりきるのですね」

「そうじゃ。二度と、ちがうものなどに化けるな」

タヌキは目をつぶり、世界」の大物を思いつづけました。
（太くて、重くて、堂々として……。なんだか、わからんけ
ど、ともかく、世界」大きいものだ）

タヌキは、ゆつくり大どんぶりになつていきました。ビルよ
りもでっかい大どんぶりです。

ぽかーん。

あんぐりと口を開けているキツネに、カラスがにやりとい
いました。

「おぬしも、たまたまキツネかい？」



内田 麟太郎（うちだりんたろう）
絵詞作家。一九四一年福岡県生まれ。「うそつきの子」（文溪堂）
で小学館児童出版文化賞、「がなことがなご」（童心社）で
日本絵本賞受賞。近著「うまれてきたんだよ」（解放出版社）、
狂言絵本「かたむり」（オブラ社）ほか著書多数。

辛口コラム 一寸苦言

副教材をどう選ぶか

一徹国語人

新指導要領が文科省から出た。今回はこ
れまでの学習指導要領とは根本的なことで
違いがあるとよく言われる。それは、六十
年ぶりに改正された教育基本法を受けての
改訂だからである。

教科書発行の各社は、その新指導要領を
十分に検討して新しい教科書づくりに励ん
でいると思われる。また、副教材を製作し
ている教材メーカー各社も、新指導要領と
学校現場のニーズを勘案しつつ、学校での学
びの補助・習熟にぴったりのものや家庭での
復習等に適した質と量のものを研究開発し
ているようである。

教師もいろいろな研修会に参加して、新
指導要領に示された内容の移行に対する具
体的な措置法や授業法の研修を重ねている
ことと思う。

平成二十三年が完全実施の年である。二
年余りの間に新しい教科書と新しい学習法
に合致した副教材が作られていくわけであ
るが、教師たちはどれだけの指導法の刷新

ができるであろうか。

副教材は教科書採択と違い、各学校各
学年の先生たちで選択決定することができ
るのだが、地域により学校により子どもた
ちの学びの特性はかなり違うことである。
学習意欲を呼び起こし、学びを楽しませ
ながら理解・習得を十分にさせうる副教材を
作るには、いくつもの種類（質と量の違いを
含めて）が必要となる。製作する方々のご
苦労が察せられるところである。

各学校・学年では、毎年四月初めと十月
初めの頃にそれら多くの見本の中から、児
童にフィットし教師が指導しやすいものを選
んできたのだが、これからは時間をかけて
構成メンバー全員でその選定を一層真剣にす
る必要がある。小学校の先生は全教科を担
当しているため、副教材選びに多くの時間
をかけられないのが実情だが、「昨年と同じ
ものにした」「イラストがきれいなものにし
た」等々、内容を吟味せず選んでしまう先
生がわりと多いと聞く。

① 指導要領の改訂をどれくらい取り入れて
編集してあるドリル・スキル・テスト等で
あるのか検討する。

② 新しい学習指導法（自分たちの授業）に
マッチした副教材となるかどうか判定す
ることが大切。

③ 文科省が毎年実施することにした全国学
力テストの結果データを自分の学校・学
年に生かす視点での副教材利用という検
討も必要。

例えば①では、「ワークテストに活用力を
みる問題がどのように取り上げられている
か、各メーカーのものを比較してみる」……と
いうように学校として統一した視点で検討し
てはいかがだろうか。

指導要領が改まった今だからこそ、教材
にも指導法にも児童の学びにもよく合った
副教材を多角的な視点から判断すること
と、その有効な活用にぜひ努力してほしい。



教科書編集部便り

編集部では、平成二十三年度版教科書の編集に全力を傾ける日々が続いています。一年以上から六年下巻まで、十二冊の教科書の完成までには多くの過程が存在し、取り組むべき仕事も多岐にわたります。編集会議の準備、編集部内での打ち合わせ、図書館や書店などでの資料収集、原稿の執筆依頼、毎日のお問い合わせの対応——今回は、その中から、教科書のデザインにかかわる、あるエピソードを取り上げ、編集部の仕事の一端をご紹介します。

教科書は、多くの人の手を経てできあがります。アートディレクターもそのうちの一人です。アートディレクターには、教科書の外側から内側まで、デザインをまるごと引き受けてもらいます。教材にこめられた意図を、子どもたちや先生方に過不足なく伝えるために、なくてはならない存在です。そのページのどこに、どの大きさで挿絵や写真を置くか、どんな色づかいにするかなど、それらを考えることは、本作りにとつてたいへん重要な要素です。そのため、アートディレクターとは、挿絵や写真のイメージについても含めて相談していく必要があります。編集部の考えや教材の意図を適切に反映した紙面をデザインしてもらうため、デザイン担当の編集者との間で入念な打ち合わせを行います。

今回ご紹介するアートディレクターは、一般書のデザインを主な仕事としています。教科書のデザインという仕事に初めて取り組むので、国語の時間に子どもたちがどのようなことを学習しているのか、教科書がどのように使われているのかなど、「教科書ってこういうもの」ということを理解してもらうのに時間がかかります。もちろん、打ち

お知らせ

光村「国語デジタル教科書」 小学校版
実践活用ガイド（Web版）を公開中

現在、全国各地でご活用いただいている「国語デジタル教科書」。「効果的な使い方を教えてほしい」という先生方からの声にお応えして、光村チャンネル内で「実践活用ガイド（Web版）」を公開しています。基本的な使い方や準備方法、よく寄せられる質問などのほか、実践例では、教材ごとに活用のポイントがわかる二十二例をご紹介します。

配布中の「実践活用ガイド」冊子より、さらに充実した内容となっていますので、すでに冊子をお持ちの先生も、ぜひご覧ください。

国語デジタル教科書	
II. 実践例（1～6年）	
1 年生	2 年生
はなの あち（上）	ふきのとう（上）
いろいろな くちばし（上）	ともごさんは どこな（上）
じどう車くらべ（上）	こんなお話を考えた（下）
どうぶつ の あちゃん（下）	
3 年生	4 年生
ありの行列（上）	漢字辞典の使い方（上）
おもしろいもの、見つけた（上）	白いぼうし（上）
道あんないをしよう（上）	
ちいちゃんのかげおくり（下）	
5 年生	6 年生
サクラソウとトウモロコシ（上）	ガイドブックを作ろう（上）
音響の研究レポート（上）	書へ（上）
千年の町にいでむ（上）	みんなで生きる町（上）
わらくつの中の神様（下）	
大進じいさんとガン（下）	

http://www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/t_digital/
光村チャンネル → 「デジタル教材」 → 「実践活用ガイドWeb版」
よりご覧いただけます。

合わせを重ねる中で、少しずつ理解していつもらえるようにも努めます。

そこで、今回、アートディレクターに実際の小学校の授業を参観してもらおう機会を設けることにしました。アートディレクター自身も、自分の目で見て感じてみたいという思いをもっていたようで、「ぜひ見てみたい。」と言ってくれました。まさに、「百聞は一見にしかず」です。授業を参観した帰り道、担当者の耳には、「二つの文章を、あんなに何度も何度も繰り返し読んで読むんだなあ。」というつぶやきが聞こえてきました。子どもたちが、みんなですらに二つの文章を読み進めていくこと、すらすらと暗唱できるほどに何度も繰り返し文章を読むこと。国語の授業、国語の教科書というもののイメージが、アートディレクターの頭の中に描かれつつあるのかもしれない。

これは、編集部が日々直面する出来事の一つにすぎません。こうしたエピソードの二つが積み重なって、新しい教科書が生まれるのです。

広報部便り

四月より、移行期に入ります。弊社ホームページに、移行期関連資料が掲載されていますので、ぜひ活用ください。

【移行期関連資料】

光村チャンネル → 「移行期関連資料」よりご覧いただけます。

移行期の年間計画 （1～6年）	現行教科書の単元・教材について、 時数や扱い方が変わるところを分かりやすく示した年間計画です。
移行措置資料付 「学習材例」（1～6年）	現行教科書の単元・教材の扱いに、 新しい学習活動・指導内容を組み込んで、 指導の展開例などを示しました。
移行期の指導に向けて （学年共通）	新学習指導要領の特徴や、移行措置の 要点をまとめた資料です。
学習指導要領新旧対照表 （低・中・高学年）	新旧の学習指導要領を並べて表示し、 変更された部分や、新規で加わった点を 分かりやすく示しました。
移行期の指導のために （学年共通）	「古典を楽しむ」「知って安心『PISA 型読解力』」…など、新学習指導要領の 特徴的な部分をピックアップし、図や イラストを交えて解説しました。

ご意見・ご感想、取り上げてほしいテーマなどがありましたら、ぜひ広報部までお寄せください。お待ちしております。

FAX 〇三（三四九三）五四八三
E-mail koho@mitsumura-tosho.co.jp

光村の提示型教材シリーズ

国語力
向上宣言!

漢字伝

漢字を学ぶ楽しさ、
伝えます。

新しい漢字学習をご提案します!

- 1 楽しいアニメーションで学習内容を捉える!
- 2 ゲームや活動に取り組み、理解を深める!
- 3 ワークシートも豊富に収録!
漢字学習の基礎をしっかりと身につける!

ただいま好評発売中! <http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

HPより体験版お申し込み受付中

小学校版 全教科書対応 低学年用・中学年用・高学年用 Windows[®]版
【学校フリーライセンス】 定価 各26,250円(本体 25,000円)⑤

光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎 2-19-9
TEL:03-3493-5741(お客様窓口) FAX:03-3493-5483
E-mail: digital-info@mitsumura-tosho.co.jp

絶賛発売中!

光村「国語デジタル教科書」小学校版
【学校フリーライセンス】各学年(1~6年)
各 52,500円(本体 50,000円)⑤

「飛ぶ教室」の人気連載対談〈あなたが子どもだったころ〉が本になりました。



河合隼雄と七つの個性が織り成す、異色の対談集!

ここに子ども力を育むたくさんのヒントがある。

- 山本容子(銅版画家) — 一人の考えないことを考えてみせる力
- 鶴見俊輔(哲学者・評論家) — 創造性を身につける力
- 筒井康隆(作家・俳優) — 一人を驚かせる力
- 佐渡裕(指揮者) — 強い思いを蓄え成長する力
- 毛利衛(宇宙飛行士・理学博士) — 環境をうまく受け入れる力
- 安藤忠雄(建築家) — 遊びからイメージーションを生み出す力
- 三林京子(女優) — 体当たりの挑戦を積み重ねる力

子ども力がいっぱい 河合隼雄が聞く「あなたが子どもだったころ」

定価 1,800円(本体 1,714円) ISBN978-4-89528-421-9

光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL.03-3493-2505 FAX.03-3493-5483 <http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

大好評
発売中

光村
図書